

江戸時代、河川の氾濫を防ぐために築堤された権現堂堤に、今から百年ほど前に桜の苗木が植樹された。

一度は伐採されたものの、現在は、長さ1kmの堤に約千本の桜が毎年見事に咲き誇る。

また宿場町として栄えた歴史ある幸手は、日光道中と御成道の結節点でもあり、筑波道が分岐する場所でもあることから重要な地だったと考えられている。

幸手宿の面影を残す大通りには、かつて道の両側にびっしりと商家が軒を連ねていた。

今でもそうした見ごたえのある古民家、蔵などが多く遺っているので、古民家を巡り往時の繁栄を偲ぶことも、このまちを知る楽しみのひとつ。

歩いてみよう 幸手



さっちゃん



つかの間の
時空旅

「幸手宿」

幸手駅から
権現堂桜堤まで
徒歩約三十分

